

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立西新宿小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和7年5月2日】

授業作り	重点	児童自らが「問い」をもち、主体的に学習に取り組む授業づくり
環境作り		児童相互の話し合い活動等、対話を生かした環境づくり

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		- ひらがな・カタカナの読み書きができる。 - 大事なことをもらさずに聞くことができるようにする。 10 のまとまりを意識しながら足し算や引き算の計算をすることができるようにする。	- 絵本の読み聞かせや音読による文字や言葉への慣れ - 音読の反復 - 話を聞く機会を意図的に設定 - ブロックなど半具体物の活用 - デジタル教材の活用
2 学 年		- 文字や言葉を正しく書くことや、文章を相手に伝わるように書くことができるようにする。 - 既習漢字や片仮名を文の中で正しく使うことができるようにする。 - 繰り上がり、繰り下がりのある加減計算や掛け算、九九等の基礎的な力を身に付けることができるようにする。 - 文章を読み、課題をつかんで立式できるようにする。	- 宿題で定期的に小作文の課題を出して、書くことに慣れ親しませる - デジタルドリルの活用 - 文章題において、言葉・図・式を意識させる授業づくり
3 学 年	- 国語の区学力調査の結果、物語の基本的な流れを読む力に課題がある児童が多い。 - 漢字の定着に個人差がある。 - 算数の区学力調査の結果、活用問題の正答率が低かった。 - 文章問題の内容理解に課題がある。 - 九九の定着に課題がある。	- 登場人物の言動に注目させうえて、場面の状況を整理できるようにする。 - 段落相互の関係や、登場人物の気持ちの変化について叙述をもとにとらえられるようにする。 - 基礎、基本を身に付けられるように指導する。 - 具体的な場面を通じて、長さやかさを測ったり計算したりできるようにする。	- 音読の反復練習 - 国語辞典の活用 - デジタルドリルの活用 - 小テスト、復習プリントの活用 - 児童一人ひとりに合わせた課題の設定
4 学 年	- 国語の区学力調査の結果、言葉に関する設問の正答率が低く、語彙力に課題がある児童が多い。 - 文章内容を正確に読み取る力に課題がある。 - 新出漢字の定着や既習の漢字の定着に課題がある。 - 算数の区学力調査の結果、式表現に課題がある児童が多い。 - 定規やコンパスなどを正確に扱う力に課題がある。	- 日常的に分からない言葉は積極的に調べて語彙を増やして活用できるようにする。 - 文章構成を理解し、登場人物の気持ちや作者の意図を読むことができるように指導する。 - 漢字練習などの練習時間を確保する。 - 式から具体的な数量関係を言葉や図などを関連付けながら指導する。 - 図形の性質を理解し、正しく作図できるようにする。	- 音読による言葉への慣れ - 漢字ドリルの活用 - デジタルドリルの活用 - コンパス、分度器などの道具の使用の慣れ - 児童一人ひとりに合わせた課題の設定
5 学 年	- 国語の区学力調査の結果、漢字の書きに課題がある児童が多い。 - 全体的に、文章を読み取る力が弱い。 - 算数の区学力調査の結果、四則演算の正答率が低かった。 - 公式に当てはめて計算することはできるが、既習事項を生かして解き方を自分で考えることが苦手である。	- 書き取り練習などを通して、日常的に繰り返し漢字を学習する習慣を身に付けさせる。 - 文章を読んで、そこから分かったことをノートに1行でも書けるようにする。 - 四則演算が完璧でない児童は、今年度のうちに定着させるようにする。 「自分で考える」ことから逃げずに、やってみようという気持ちをもたせるようにする。	- テストで8割に満たない児童は再テストの実施 - 読書月間や毎週の図書指導で本に親しませ、活字に触れる機会を設定 - 少人数指導の時間における、四則演算等の基礎的な計算をする時間の設定 - 自分で考える時間の確保
6 学 年	- 国語の区学力調査の結果、登場人物の動きから物語の流れを読み取る力に課題がある児童が多い。 - 日常的に漢字を使う習慣を身に付け、語彙力の向上が必要である。 - 書く力、表現する力を高め、同時に表現することが楽しいと感じられるような取り組みが必要である。 「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域の力をバランスよく身に付け、特に話す・聞く力を伸ばす必要がある。 - 算数の区学力調査の結果、活用問題の正答率が低かった。 - 基本的な四則計算のつまずき、計算ミスが見られるため、計算力を高める。 - 文章問題を正確に読み取り、立式する力の向上が必要である。	- 登場人物の言動の根拠を考えながら読む指導をする。 - 漢字の練習だけでなく、書くことを日常的な活動として取り組み、漢字や言葉を正しく活用する習慣を身に付ける。 - 書くことの学習において、目的を明確にした上で文章を書かせる。 - 話の聞き方、話をする際の約束を徹底し、日常生活から話す・聞く機会を多く設定する。 - 第5学年までの既習内容を定着させ、基礎的な学力を身に付ける。 - 問題文から読み取ったことについて話し合うなどの活動を行い、思考力等の力を伸ばす。 - 問題を読む際に、わかっていることや求めることをつかみ、問題を正しく読み取る力を高める。	- 日常生活でもすすんで漢字や熟語を活用し、表現する活動の設定 - 文章を書く目的や相手意識を踏まえた単元計画の実施。 - 読書を通じた表現のよさに触れたり、友達の記事を読み合ったりする機会の設定 - スピーチする、話を聞いてメモを取る、インタビューする、質問に対して答える等の機会の設定 - デジタルドリルの活用 - 問題解決の際に、整理して考えたり図・言葉・式をもとにして取り組んだりできる授業づくり - 問題に対して、自分の考えを書き表し、説明する時間の設定

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】 【区教委提出用・様式2・令和7年5月2日】

- ☑ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☑ 学校は活用に際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☑ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☑ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☑ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☑ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☑ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

昨年度の区学力調査の結果から、どの学年も国語では文章の読み、算数では、式の表現と活用について課題のある児童が多かった。また、A層とD層の差も大きく、D層については無回答の児童も多く見られた。

このことから、以下のような指導を計画し、実践した。

- ・文章の読みでは、根拠となる言葉にサイドラインを引いて着目できるようにしたり、登場人物の言動が分かるところについて話し合ったりして考えながら読めるように指導した。
- ・式の表現では、図や言葉と式を関連付けて考えられるように、立式の根拠を記述させたり説明させたりすることを意識して指導した。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・全学年で、単元の導入では、前学年での関連した内容を、終末ではその単元の内容について、定着を図れるようにデジタルドリルを活用するように周知する。
- ・区学力調査の結果をもとにした、個人専用の復習問題に取り組む時間を取って習得を目指した。
- ・日常的に、家庭学習の一つとして、児童に推進した。